

寺報 善巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
TEL・FAX (0765) 65-0055
TEL オテラザ 65-0975

- | | |
|------|-----------|
| 二三日 | 真照寺・報恩講 |
| 二十四日 | 田家・達野・経田 |
| 二十五日 | 柳沢報恩講 |
| 二六日 | 東狐・青木・報恩講 |
| 二七日 | 称名寺・報恩講 |
| 二八日 | 新浜・飯野・報恩講 |
| 二九日 | 新浜・飯野・報恩講 |
| 三十日 | 板屋・報恩講 |

- | | | |
|------|------------|-------|
| 一九日 | 午後一時 午後七時半 | 逮夜 初夜 |
| 二〇日 | 午前七時 | 晨朝 初夜 |
| 二一〇日 | 午前十時 | 日中 满座 |
| 二二〇日 | 午後一時 | 川崎順正師 |

一日 お講・板屋
二六日 お講・三日市

寺
ごよみ
十月

講話	空報	十一月十九・二十日
利井明弘師	川崎順正師	
忌	恩講	



骨を折して腸を断つ。入滅年はかなりといへども、往詣挙りていままだ絶えず。

親鸞聖人がお亡くなりになつて何百年経過しても、毎年毎年廟堂にお詣りする人は絶えない。そしておまいりするたびに涙が出て来るし断腸の思いがする。

皆さんも報恩講におまいりして

上人の選述によるものです。此の「式文」には何が書いてあるか。その内容を詳しく書いて見ることにします。声を出すところがあります。有難い中でも特に有難いところです。

「廟堂に跪きて涙を拭ひ、遺

よりて、かならず最初引接の利益を垂れたまへ。よりておのの他方に帰して仏号を唱へよ」代々にわたつてこの有難いごの他方に帰してお念佛申しまし

住職 雪山俊之

報恩講にぜひおまいりを

報恩講がつとまります。今年もぜひお誘い合せておまいり下さい。二十日のお満座のおつとめの話をして致しましょう。お内陣に内山・若栗・荻生・三日市・生地のお寺の御住職が並んで座つていらつしやる中を、住職が登高座しておつとめが始まります。

此のおつとめのハイライト最高潮は、住職が巻物を読み上げる時です。あの巻物を正式には「報恩講私記」と申します。単に「式文」ともいわれます。第三代宗主覚如

本当に悲しいことに親鸞聖人はお亡くなりになり、そのお姿は私達拝むことは出来ないがご真影様として目の前にいらっしゃるし、お言葉を直接に聞くことは出来ないが、み教えはちゃんとお言葉として残っている。

「弘通したまふ教行 遣弟これを勧めて広く片城の群萌を利す。おほよそその一流の繁昌はほとんどの在世に超過せり」親鸞聖人のみ教えは、あとに残つた弟子たちによつて日本中の善男善女を救うことになり、浄土真宗の繁昌は、今日一世を風びしている。

「願はくは師弟芳契の宿因にえんにあづかり、どうかご利益にあづからせて下さい。おのの他方に帰してお念佛申しまし

「哀れなるかなや、恩顔は寂滅の煙に化したまふといへども、眞影を眼前に留めたまふ。悲しきかなや、徳音は無常の風に隔たるといへども、実語を耳の底に貽す。」

同じ思い思います。



高田派本山専修寺お裏方
常磐井和子様おことば

雪華院様、雪山隆弘様がお淨土へ帰られましてから一年たちました。今日はなつかしい、そしてうれしい気持もありながら一番奥底にございますのはやはり悲しさでございます。

今ご紹介いただきましたように、みなさまと同じく親鸞聖人をご開山と仰ぎます真宗高田派の三重県一身田にござります専修寺と申しますところからおまいりをさせていただきました。

雪華院様、雪山隆弘様がお淨土へ帰られましてから一年たちました。今日はなつかしい、そしてうれしい気持もありながら一番奥底にございますのはやはり悲しさでございます。

昨年の三月、私どもで婦人会と坊守会の合同の研修会をいたしました。その時におこしいただいたのがお目にかかる最後でござります。逢えてよかったです

という題でお話を下さいましたが、ご自分の命があと半年かもしれないという事を本当に明るくお話ししてくださいました。まだ事態のみこめない私どもや聴衆は、まさかと思いながらうかがいました。そして、まるでお約束を果されたように半年後にはご往生なさったのでござります。その時のビデオが「逢

えてよかつた」という題で私共でできておりました。それは撮影した人の言葉によりますと、まるでカメラがずっとついていくような、そんな迫力を雪山さんはお持ちだったと申しておりました。お話をきいた者も聞かなかつた者も、そのビデオがほんとうにかけたことがわかりません。最近でも知り合いの方に、もう私の手もともないから貸してさしあげるだけ、といつてお見せしましたところ、二か月たつてもかえってこないのでござります。その方がご覧になつた後も、またあの方にも見せたい、苦しんでいるあの方に見せたい、研修会にみんなを集めてみていただきたい、次々とそういう希望ができるのだそうでございます。

一年たつてもまだ雪山さんは私共のお近くでご説法してくださつてゐるのでござります。本当にふしきなお力をお持ちの方だつたと思います。どれだけたくさんの方が雪山さんのあのお話で生死を越えるということを、自分でとめることがで

きたか。また病の床にあってどうにも行き詰っている気持を、あのお話でのりこえた方がきっとたくさんいるにちがないと思つてございました。

本当に今日はご縁ありがとうございました。

雪山さんは本当になつかしいお方でございまして、お逢いするといつもあたたかい、ほつとするような、言葉をかけてくださいました。そしてあたたかい霧間気につつんで下さったあとには本当にさわやかな印象が残りました。

私の様なものをいつも心のどこにかけていたでいて、それがとなく心のうちでお話かけができるようなそういうなつかしい方でございました。

昨年の三月、私どもで婦人会と坊守会の合同の研修会をいたしました。その時におこしいただいたのがお目にかかる最後でござります。逢えてよかったです

という題でお話を下さいましたが、ご自分の命があと半年かもしれないという事を本当に明るくお話ししてくださいました。まだ事態のみこめない私どもや聴衆は、まさかと思いながらうかがいました。そして、まるでお約束を果されたように半年後にはご往生なさったのでござります。その時のビデオが「逢えてよかつた」という題で私共でできおりました。それは撮影した人の言葉によりますと、まるでカメラがずっとついていくような、そんな迫力を雪山さんはお持ちだったと申しておりました。お話をきいた者も聞かなかつた者も、そのビデオがほんとうにかけたことがわかりません。最近でも知り合いの方に、もう私の手もともないから貸してさしあげるだけ、といつてお見せしましたところ、二か月たつてもかえってこないのでござります。その方がご覧になつた後も、またあの方にも見せたい、苦しんでいるあの方に見せたい、研修会にみんなを集めてみていただきたい、次々とそういう希望ができるのだそうでござります。

一年たつてもまだ雪山さんは私共のお近くでご説法してくださつてゐるのでござります。本当にふしきなお力をお持ちの方だつたと思います。どれだけたくさんの方が雪山さんのあのお話で生死を越えるということを、自分でとめることがで





隆弘をしのぶ 夕べ

松木美紗

男先生をしのぶ夕べがありました。雪ん子げき団ができてから今までやつてきた「うちの父ちゃんえらいんだ」と「明日にむかって」という歌をうたいました。

「しのぶタベ」の感動を何かに比べます
なら、数年前銀座でマーベラタを娘
と一緒に見ましたが、生涯忘れられない
感動でしたのと同様で、この度も一生に
何度もない感銘でございました。娘と一緒に
人の心の財産になりました。人にどんな
にお頗ちしても減らない財産に。雪ん子
の一人ひとりの中からつき上げてくる
エネルギー、その奥に隆弘様がいらつし
やるのが実感されました。可愛くて楽し
いのに涙が止まりませんでした。

先生、きびしい目で見てらっしゃると思って一生けん命やりました。みんなのおどりもりズムにのって上手にできました。練習の前には、発声練習をしてからるのでみんないい声でした。歌をうたっている時、男先生の顔を思いだし、なつかしくて泣きそうになりました。

男先生、今までいろいろな劇やあみださまのこと教えてくださいがとうございました。

などいろいろな経験をしました。
男先生の一周年忌の法事の後の
「しのぶ夕べ」の時、「ああ、
一年たつたんだなあ」とほーっ
としてしまいました。雪ん子の
子供達が劇をやつた後、みんな

これから先、いろんな新しいことを知っていくでしよう。その度に気持ちは変わると思います。それでも素直になつて一生懸命生きていくのが大切なことだと思います。

初めての体験と発見

雪ん子OG
高校二年

栢澤明子



この二日間は忙しく、いろいろなことがあつた気がします。私はこの記念法要で今までしたことがなかつたことをし、新しいことを知りました。昌和君と足の調子があうかどうか心配だった伝供の役。奇妙なくすぐつたい音色のシタールの演奏。学校以外の場で、他国の人と接して緊張したこと。お裏さまにお茶をおだしだしたこと（すんでいる世界の違う（?）人がいるんだと妙に実感してしまつたのです）

中に入つて、歌いたくなりました。「いつでもどこでもそばにいるよ」という言葉は、すごく元気づけられます。それがいい人であつても心の中での支えになります。男先生がいなくなつても、心と言葉はずつとみんなの中にあると思いました。

次の年がきて、またその次の年がきても、その気持ちは変わらず、忘れず、一生懸命生きたら待つている愛すべき人達のところに行くことになるのだと思いました。

雪山隆弘さんの 1周年忌で友人ら集う



字奈月町
共 1/1

テレビの笑顔にすすり泣き

初めての体験と発見

高校二年

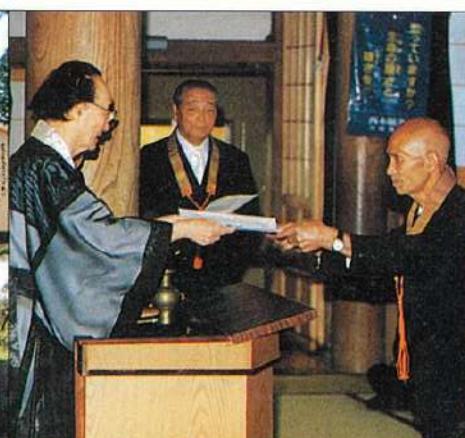
高校二年

1

で、「明日に向かって」を歌つた

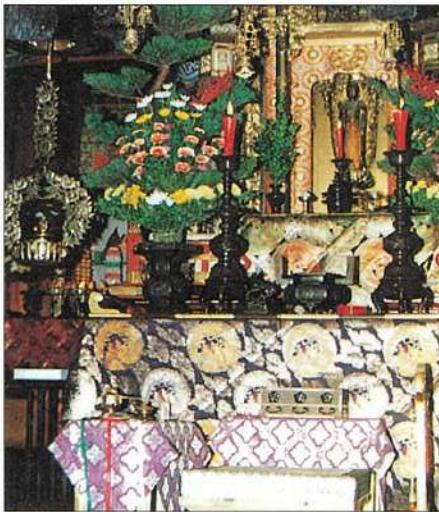
心にぐつときました。私もその

500年 50年



華やか

この盛儀御覧じませとただ合掌



法

詩

行信教校教授

梯實圓先生

皆さんおはようございます。

ところに、お糺迦様が千二百五

たのでござります。

込みにいこうとしている夕方時
分、どこからともなく鐘の声が
聞えてきた、それが胸にしみる
ような思いがしたというんですね。
思わず鐘の響いてくる方に

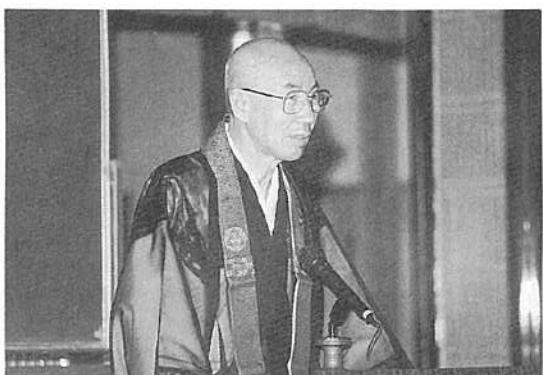
皆さんおはようございます。先ほど梵鐘がなつておるのを聞きました思い起したのでござりますが、今日はこの梵鐘のお話をさせていただこうと思つたのでござります。

ところに、お糺迦様が千二百五

たのでござります。

込みにいこうとしている夕方時
分、どこからともなく鐘の声が
聞えてきた、それが胸にしみる
ような思いがしたというんですね。
思わず鐘の響いてくる方に

私達もね、仏法聴聞さしてい
ただく時に、その点一つはつき
りさせていただかねばならん事は
はつきりならんやつじやという
ことをはつきり知らしてもらひ



ます。その無常院にはやはりで
きた鐘がつるされておりまして
手当てのかいなく往生をとげま
すと、その鐘をならして祇園精
舎全体に知らせたのでございま
す。そういうところから「祇園
精舎の鐘の声諸行無常の響きあ
り」というあの有名な言葉が出
てくるのでございます。これは
四分律の行事鈔に出ておりまし
て、それを今から丁度千年前に
源信僧都が往生要集をお書きに
なりまして、その中にこの言葉
を引用されたんですね。それが
あの平家物語に出てまいりまし

の報恩講の晩にその富さんがやつてまいりまして、昔話をいろいろとしてくれたのでござります。鐘の音がご縁となつて仏法を聞くようになつたというのでござります。この富さん、若い頃はばくちうちで、けんかが強くひとかどの親分になつたそうでございますが、いさかいけじめをつけなければならなくなつて、どうしても人一人殺さなければならん事になつたんだそうです。一人でひとりに脇差し一本持つてなくなり

は何んを知らん。こんな何を知らんわしを必ずお淨土へ生まれさせ
せるというて下さる親さまがい
て下さる、何も知らんままをこの親さまの仰せにまかせてある
とおつしやつた。この一言で目
の前がすっと開けたというんで
すね。何とかはつきりわかつてある
と思って一生けん命やつとつた
のは、わかる力もなければはつ
きりなれない人間じやつた、そ
のまんまと如米さまにおまかせ
するんじやつたと気がついた、
それからほんまに法が聞けるよ
うになつたと言うとりました。

皆さんおはようございます。先ほど梵鐘がなつておるのを聞きました思い起したのでござりますが、今日はこの梵鐘のお話をさせていただこうと思つたのでござります。

梵鐘の響きをきいておりますと確かに心がなごやぐ、何かこう仏さまのみ教えをしのばして頂くすばらしいご縁になつていくそういう響きがあるのでござりますが、この梵鐘の一番もとなつたのは、インドの祇園精舎の鐘であつたといわれております。お釈迦さまがいつもご説法なさつておりました祇園精舎というお寺があるのでござります。正確には祇樹給孤獨園と申しますが阿弥陀経の一番最初の

ところに、お釈迦様が千二百五十人の仏弟子達にむかって、このみおしえをお説きになつたと出ておりますところでござります。その西北の隅に無常院とう病院があつたのでございます。心と体の病いを共にいやしていく、そして心身ともに健やかに育てていくという仏法でございましたのでお寺には病院があつたのでございます。そこへ病気になられたお坊さんや在家の信者の方々を収容して治療をするんですね。治療するお坊さんのことを看病比丘と呼ぶんですが看病というのはお経の中から出てきたんです。病院という名前も、療病院、病をいやす所といつて仏教からでた言葉でございま

たのでございます。
我々が今見ておりますような
梵鐘の形にいつ頃から、どうい
う所から出来たのか、定かではござ
いませんけれども、日本には
朝鮮半島から入つてまいりま
したのが原型で、それを日本流に
作りかえて今の形になるわけで
ございます。そこで思い出すく
れますけれども、梵鐘がご縁とな
りましてご法義に入つた人がい
りますのでございます。

大阪の千里丘陵の一角に山田
村という所がございました。そ
こに富さんというおじいさん
がいたんでございます。常見寺
の門徒でございましてね。昭和
二十年代の終り頃でございまし
たが、丁度その頃、私、行信教校

ね。思わず鐘の響いてくる方に
つられるように行くと、今度は
換鐘が響いてきた、そのお寺の
縁にじつと座つてお勤めを聞い
ていたらもう立てなくなつてしまつた。やがてわれがねの様な
声でご法話をする人がだんな
寺の利井興隆先生ときいて、今
日限りでこの稼業をやめるとい
うたそうです。これがご縁でやくざ
をやめて仏法三昧の生活をしたの
でございます。ところが何年聞い
てもどうしても最後のところがわ
からん、そこで報恩講の終つた夜
中に、興隆先生を起して、どう
ても後生の一大事が気になつて
安心ができん、ほんまにお淨十
です。すると興隆先生は、おれ
は可いよ、こゝで可いよ、

ことをはつきり知らしてもらいましよう。そしてはつきりならんやつ、わけのわからんものがもやもや心の中から出てくるそのまんまを救うぞとおっしゃつて下さる親さまがいて下さるんだという事をおとりつぎ下さつたのが、ご開山であり、蓮如上人であり、次第相承の善知識であつたわけでございましょうね。

今朝、この寺の鐘の音にうながされて、富さんが、あの梵鐘の声が私の善知識やつたというておつたのをなつかしく思い出したのでござります。

おそらくこれからも朝な夕なに鳴り響いていく鐘の音が、また多くの人々の心を開き、導いて、仏さまの所にいざない寄せてくれると思つてござります。

講	四日	空
話	午後七時半	華
利井明弘師	午前七時 晟朝	忌
午後一時	午前十時	
滿座	日中	



若はんの思い出

野島重一

この度の法要が盛会のうちに終りました。これもひとえに門信徒の方々、並びに関係有志のご協力のお陰だと思います。

若はんも命にかけても記念事業を完成させたいと願つておられましたので、皆さんのお陰で無事終ることができて「ようこそようこそ」と、花の淨土でお喜びのことと思います。

若はんは、雪ん子劇団の誕生、環境の整備、夢を語る会、白鶴会等々、精力的に行事を進められ、数多く出版もされた結果、今まで

九月三十日 月曜 くもり
二日間にわたって營まれた大法要もお蔭で無事終つて、今日は一日休養と行き度いところだが仲々うまい具合に運ばない。十時、音沢から上ヶ法事にいらつしやる。本堂で何時ものように読経。午後五時から会合が一つある。先日、次のような案内を受けている。

「館先生を囲む集いについて、館先生には近著出版後一時健康を害されましたが現在小康を得て再び著作と伝道に復されました。先生の知己の方々でささやかな「集い」をしますのでご参加下さいますようお願いします。私も発起人の一人だからどうあっても出

は日本の善巧寺となりました。全国から問合せやら励ましの電話や手紙があり、おまわりにもおいでになります。若はんは百年の生命を五十年にして数えきれない業績を残してお淨土へかえられました。

成長した雪ん子と立派になつた七堂伽藍を見る時、若はんの笑顔と呼びかけておられる声が聞えるようで、感動にむせびます。境内の大銀杏もきっとこの歴史を末代に伝えてくれることでしょう。

私はホンコさん回りに若はんと一献汲みかわす事が何よりの願いであり楽しみであります。

席したい。場所は富山第一ホテル二階柱の間である。健康に自信がないので、孫娘の運転のくるまで直接会場に出掛けることにする。久しぶりにネクタイをしめる。午後四時出発。高速を通るので定刻十分前にホテルに着く。集まる者総勢十五名。

みんな知った顔で、皆夫々寺の住職である。私が富山の町まで出掛けたのは何年ぶりだろうか。一番心配だった館先生の健康も一見したところ顔色もいいし、久しぶりに聞く話しうりも病後の感じは全くない。私と先生は五十年



法要に参加して

岡明彦

この度、全法要・行事に参列させていただいたが、何よりも「人の心のあたたかさ」を強く感じさせられた二日間であり法要であつた。

お年を召されたお寺の役員の方々、宇奈月夢を語る会のメンバー、雪ん子劇団のOBたち、それに参拝者や主催者であるお寺の方々。

皆さんからあたたかさが伝わってくる。老いも若きも、それがそれぞれの立場、ご縁でお寺を中心に集まつて活動され盛り立ておられる。「ようこそ、

の付き合いで、同じ明治四十四年の生れである。今日集まつた人々の中で、私達より年長は二人しかいない。年を取ると色々な故障が出るもので、先生は此の七月、心筋梗塞の発作で一ヶ月入院治療されたと聞く。幸いに、今、無事なお顔を見せられて、此の席に出ていらつしやる。五時半に、司会者の挨拶があつて、先生ご自身のお話を聞くことになる。講演をさせたところ、先生のスピーチは堂々集まりだつた。車で家に帰つたのが九時。入浴、就床十時。

ようこそ」「お寺をハートのある公民館に」などの雪山さんの思いがそのまま実現されている。

私自身は浄土真宗門徒ではない。前に一度「雪ん子劇団」の公演を撮つたことがあるというだけのご縁で、お寺の若奥様より法要の記録写真撮影を依頼されて参加したのだが、全く違和感はなかつた。

同じ仏教徒であることのありがたさをしみじみと感じた事と、「人の心のあたたかさ」にふれた感激は忘れ得ない。梯先生のご講話などから、毎日を心豊かに充実させて生きていかねばと決意を新たにした二日間であつたことを深く感謝申し上げたい。



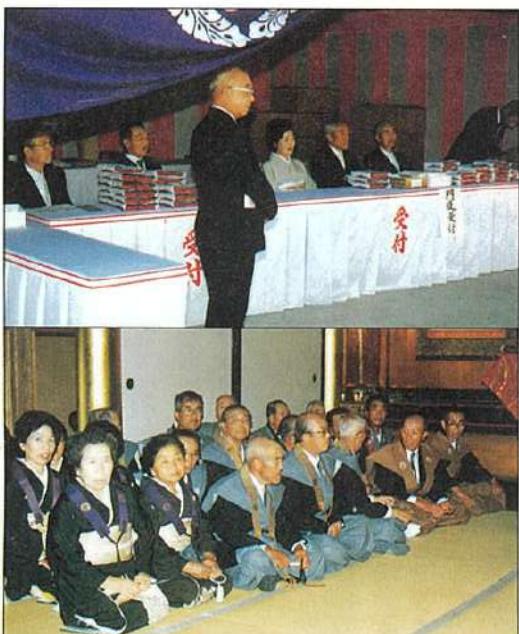
住職日記

学の卒論を書くとき指導教授か

法要を迎える寺の秋海棠
秋の庭もぐらの土をならしきり

日	寺 ごよみ	十二月
一	三日	中ノ口・赤田報恩講
二	四日	愛本新報恩講
三	五日	下立愛本報恩講
四	六日	大橋報恩講
五	一一日	下村報恩講
六	一二日	下立愛本報恩講
七	一三四日	大橋報恩講
八	一四日	内山報恩講
九	一六日	お講・浦山
十	一七日	音沢・報恩講
十一	二一日	音沢・報恩講
十二	二二日	音沢・報恩講
十三	二三日	音沢・報恩講
十四	二四日	音沢・報恩講
十五	二五日	音沢・報恩講
十六	二六日	中陣・報恩講
十七	二七日	浦山新・報恩講
十八	二八日	光せん寺・報恩講
十九	二九日	常照寺・報恩講
二十	二五日	出・報恩講
廿一	二六日	魚津報恩講
廿二	二七日	中新報恩講
廿三	二八日	お講・浦山新
廿四	二九日	中陣・報恩講
廿五	二五日	出・報恩講
廿六	二六日	魚津報恩講
廿七	二七日	中陣・報恩講
廿八	二八日	光せん寺・報恩講
廿九	二九日	常照寺・報恩講
三十	二〇日	出・報恩講
卅一	二一	除夜会

お世話方 おつかれさま!



〔案内〕本波光雄、川口三郎、大藪富美子、柄沢重盛、森岡昭二、板川安二、開沢信一、田中珠江

〔莊嚴〕浦滝友一、岩上己之助、河村としい、川瀬久義

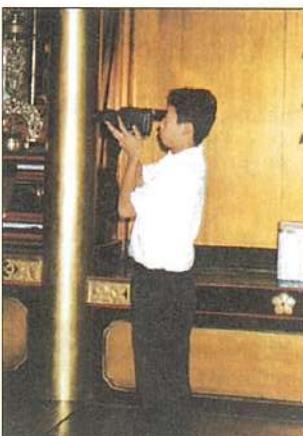
〔会場〕菊地良造、佐々木助

〔記念品〕大藪良造、野島重



〔出仕〕沢田最一、神子巧、菊地れい、田中真希、新保博子、中真弓、河村薰、沢田百合子

〔表彰〕樺穂、野崎吉郎、東



〔鐘樓〕船屋幸弘、岡田実、野畑一雄、野畑松二

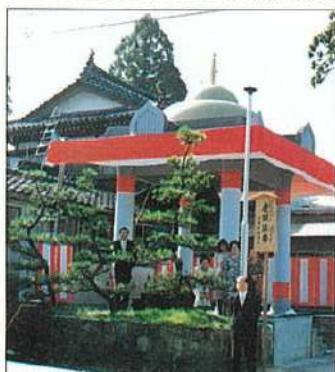
〔交通〕中山慶太郎、沢田修、野崎吉明、板川進、有馬文義、新保幸夫、加藤友司

〔接待〕田中まつゑ子、橘てるる、八木保子、本波悦子、松木紀久代、中紀子、桜田富子、関口秋子

〔記録〕上野玉樹、佐々木哲哉、岡明彦、大田昌和、沓掛栄一郎

〔会館〕柄沢明子、中千鶴、森内麻喜子、福島由紀子、中山聖子、倉井裕美子、本村理恵、太川和泉、中山千里

〔しのぶ夕べ〕中山慶一、有馬啓、中山英二郎、沢田由紀恵、夢を育てる会



台風一過の九月二十八日には
しめやかに、一周忌法要としの
ぶ夕べを、からりと晴れた翌二
十九日には、華やかに慶讃法要
を、魔事なくつとめることができ
ました。悲しく、うれしく、よ
ろこびの法要でありました。

台風で荒らされた境内や庭の
掃除にかけつけて下さった方々、
長時間駅のホームで列車をまち、
乗り継いでおこしていただいたご
方々、そして二日間にわたって
おまいりくださった方々、何と
たくさんの方々のお力とお心を
およせいたただいたことでしょう。

とんで、といっておわびしなくて
はならない方やお礼の言いよう
のない方があまりにも多すぎま
す。失礼ながら紙上よりおわび
とお礼を申させていただきます。
ありがとうございます! めんなさい!

合

掌